

# 堤研究室が関わっている 公共施設活用事業の一部紹介

## 【公共施設再配置検討事例】

事例1-當麻庁舎周辺施設の利活用（奈良県葛城市）

## 【住民と考えるワークショップ事例】

事例2-芋井地区の公共施設再配置（長野県長野市）

## 【まちづくり事業を自分たちで実施している例】

事例3-公営住宅の利活用 広瀬団地空き室を学生シェアハウスとして利用  
(群馬県前橋市)

## 1. 當麻庁舎周辺施設の検討結果

比較項目	たたき台①	たたき台②	たたき台③	たたき台④	たたき台③-2	たたき台④-2	
整備イメージ ※2025年	<p>2025年まで</p> <p>當麻文化会館に當麻庁舎を複合化。旧分庁舎は資料保管を中心に利用。旧當麻庁舎跡地について、民間整備の可能性検討。</p> <p>総面積 4,820m²</p>	<p>2025年まで</p> <p>旧分庁舎、當麻文化会館、當麻図書館とも一時的移転とほぼ同様に利用方法で継続するため、利用者への影響を最低限に抑制。旧當麻庁舎跡地について、民間整備の可能性検討。</p> <p>総面積 4,820m²</p>	<p>2025年まで</p> <p>當麻図書館を當麻文化会館に複合化。當麻図書館を當麻庁舎に転用。旧分庁舎は資料保管を中心に利用。旧當麻庁舎跡地について、民間整備の可能性検討。</p> <p>総面積 4,820m²</p>	<p>2025年まで</p> <p>小規模の新庁舎を新築。旧分庁舎は資料保管を中心に利用。當麻図書館、當麻文化会館のあり方検討は継続。旧當麻庁舎跡地の一部に駐車場の確保が必要。</p> <p>総面積 5,520m²</p>	<p>2025年まで</p> <p>當麻文化会館の全面改修により3施設を複合化し、用途変更、長寿命化を実現。旧當麻庁舎跡地、當麻図書館跡地、旧分庁舎跡地について、民間整備の可能性検討。</p> <p>総面積 3,492m²</p>	<p>2025年まで</p> <p>當麻図書館を複合化した中規模の新庁舎を新築。旧分庁舎は資料保管を中心に利用。當麻文化会館のあり方検討は継続。旧當麻庁舎跡地の一部に駐車場の確保が必要。</p> <p>総面積 5,520m²</p>	
概要	<p>旧分庁舎 → 倉庫 當麻図書館 → そのまま 當麻文化会館 → 庁舎と複合化</p> <p>當麻文化会館に旧分庁舎から當麻庁舎を移転し、複合化。</p>	<p>旧分庁舎 → そのまま 當麻図書館 → そのまま 當麻文化会館 → そのまま</p> <p>施設はそのまま利用することで、利用者への影響を最低限に抑制。</p>	<p>旧分庁舎 → 倉庫 當麻図書館 → 庁舎 當麻文化会館 → 當麻図書館と複合化</p> <p>當麻図書館を當麻文化会館に移転し、複合化。また、當麻図書館を新しい當麻庁舎に転用。</p>	<p>旧分庁舎 → 倉庫 當麻図書館 → そのまま 當麻文化会館 → そのまま 新庁舎 → 小規模新築</p> <p>700㎡程度の新庁舎を新築。存続施設(當麻図書館、當麻文化会館)は別途要検討。</p>	<p>旧分庁舎 → 解体 當麻図書館 → 解体 當麻文化会館 → 庁舎・図書館と複合化(全面改修)</p> <p>當麻文化会館を全面改修し、當麻庁舎・當麻図書館・當麻文化会館の全てを複合化。</p>	<p>旧分庁舎 → 倉庫 當麻図書館 → 解体 當麻文化会館 → そのまま 新庁舎 → 中規模新築</p> <p>當麻庁舎+當麻図書館を複合化し、1,500㎡で新築。存続施設(當麻文化会館)は別途要検討。</p>	
ポイント ・メリット ・デメリット	<p>たたき台①のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・當麻文化会館の低利用スペースの有効活用。ただし、総合窓口の場所や利用者動線の確保、継続利用に必要なホール改修が課題</li> <li>・初期費用は圧縮されて見えるが、周辺施設の機能維持のための改修や建替費用を考慮すると総費用は大きな負担</li> <li>・直近で當麻文化会館の特定天井改修がいずれにせよ必要</li> </ul>	<p>たたき台②のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・當麻文化会館や當麻図書館はそのままの用途で利用するため、利用者にとっては最小限の影響</li> <li>・初期費用は圧縮されて見えるが、周辺施設の機能維持のための改修や建替費用を考慮すると総費用は大きな負担</li> <li>・直近で當麻文化会館の特定天井改修がいずれにせよ必要</li> </ul>	<p>たたき台③のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年までの初期費用が一定程度必要</li> <li>・當麻文化会館に図書館機能を付加するため、構造的な確認・改修が必要</li> <li>・利用者動線の確保に制約有</li> <li>・當麻図書館を庁舎として活用するため、スペースを確保可能だが、長寿命化改修が必要</li> <li>・周辺施設の機能維持のための改修や建替費用を考慮すると総費用は大きな負担</li> </ul>	<p>たたき台④のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年までの初期費用が一定程度必要</li> <li>・現存施設を触らないため、市民への影響が少ない</li> <li>・周辺施設の機能維持のための改修や建替費用を考慮すると総費用は大きな負担</li> <li>・直近で當麻文化会館の特定天井改修がいずれにせよ必要</li> </ul>	<p>たたき台③-2のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年までの初期費用が大幅に必要</li> <li>・長期的には改修・建替費用などが抑えられ、総費用は大幅削減可能</li> <li>・全面改修をすることで、建替より安価に複合化が可能</li> <li>・現施設の機能が集約されることで、既存施設跡地は民間提案を活用した、にぎわいの場として検討の可能性が広がる</li> </ul>	<p>たたき台④-2のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年までの初期費用が一定程度必要</li> <li>・現存施設を触らないため、市民への影響が少ない</li> <li>・複合化により、たたき台④よりも費用が低く抑えられる</li> <li>・周辺施設の機能維持のための改修や建替費用を考慮すると総費用は大きな負担</li> <li>・直近で當麻文化会館の特定天井改修がいずれにせよ必要</li> </ul>	
費用 〔百万円〕	(A) 再配置に最低限必要な改修	70	0	610	450	2,180	990
	(B) 建物を安全に使用するための改修(文化会館特定天井等)	280	280	0	280	0	280
	(C) 2025年までに実施が望ましい改修(空調・電気設備等)	300	300	300	300	0	270
	2025年まで計	650	580	900	1,030	2,180	1,540
	(D) 2040年までに必要な改修・維持保全(外壁・屋上・バリア等)	1,600	1,640	1,540	1,600	0	1,460
	2040年まで計	2,250	2,220	2,450	2,630	2,180	3,000
(E) 既存施設更新及び付加価値の追加整備	2,960	2,960	2,960	2,800	630	1,790	
総費用(参考)	5,210	5,180	5,410	5,430	2,810	4,800	

※ なお、表中の2025年、2040年の表記は、たたき台によってスケジュールは前後するため、2025年を直近の再配置の目安として、2040年を庁舎の集約について検討を行う時期の目安として、それぞれキリの良い数字を使用しております。また、計数は今後の協議結果により変更の可能性がります。

図書館整備の先進事例

1. 玉野市立図書館・中央公民館

施設名	玉野市立図書館・中央公民館
住所	岡山県玉野市宇野 1-38-1 天満屋ハピータウン・メルカ 2階
開業年	平成 29(2017) 年 4 月
延床面積 <sup>31</sup>	4177.98 m <sup>2</sup> （うち図書館約 2260 m <sup>2</sup> 、中央公民館約 1708 m <sup>2</sup> 、共通約 210 m <sup>2</sup> ）
事業主体	玉野市
運営方法・運営者 <sup>31</sup>	指定管理者制度 ・ 株式会社図書館流通センター
図書蔵書数 <sup>32</sup>	195,000 冊（うち開架図書 154,000 冊）
利用者数 <sup>33</sup>	入館者数 422,540 人、利用者数(貸出機通過数)120,058 人(平成 29 年度)
開館時間 <sup>32</sup>	9 時～21 時
休館日 <sup>32</sup>	毎週月曜日、年末年始、特別整理期間
施設内容 特徴	<p>既存する商業施設の 2 階を改修し、図書館・公民館を整備した事例。 市の新たな“まちの賑わい創出拠点”として整備。 図書館内に公民館の諸室を配置し、お互いの活動の見える化をしている。 公民館の研修室が予約されていない時間は、自習室として利用可能。 設計・工事に先駆けて指定管理者を選定したことにより、運営者の視点を設計・工事に反映することが可能となった事例。</p>
ホームページ <sup>34</sup>	<a href="https://library.city.tamano.okayama.jp/">https://library.city.tamano.okayama.jp/</a>



<sup>31</sup> 玉野市ウェブサイト「<https://www.city.tamano.lg.jp/site/kyouiku/22707.html>」

<sup>32</sup> 日本の図書館 統計と名簿 2020、公益社団法人図書館協会

<sup>33</sup> 平成 29 年度 指定管理者点検結果「<https://www.city.tamano.lg.jp/uploaded/attachment/10945.pdf>」

<sup>34</sup> 写真、平面図については、玉野市立図書館・中央公民館のウェブサイトより引用。

## 2. 豊橋まちなか図書館

施設名	emCAMPUS EAST（豊橋まちなか図書館他）
住所	豊橋市駅前大通二丁目 81 番地 emCAMPUS EAST 2F・3F
開業年	令和3（2021）年11月
延床面積 <sup>35</sup>	図書館部分約 4,000 m <sup>2</sup>
事業主体	豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発組合（図書館：豊橋市）
運営方法・運営者	図書館：委託・株式会社図書館流通センター
図書蔵書数 <sup>35</sup>	開架図書 65,000 冊、閉架図書 0 冊（最大蔵書冊数 106,000 冊）
利用者数	不明
開館時間 <sup>36</sup>	9 時～21 時（図書館）
休館日 <sup>36</sup>	毎月第 4 金曜日、年末年始、特別整理期間
施設内容 特徴	市街地再開発事業に伴い、emCAMPUS EAST が竣工。1 階は商業施設、2・3 階は図書館、4 階は行政施設、5 階はオフィス、上層階は住宅を整備。 図書館には中央ステップが設置され、トークイベントや上映会など、多様な利用が可能。イベントがない時は閲覧席として利用可能。館内は BGM が流れ、会話等も可能。蓋がついていれば飲食も可能。ただし、静かに読書をしたい利用者向けにラウンジを設置。
ホームページ <sup>37</sup>	<a href="https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/">https://www.library.toyohashi.aichi.jp/facility/machinaka/</a>



<sup>35</sup> ヒアリングによる。

<sup>36</sup> 豊橋まちなか図書館ウェブサイトより。

<sup>37</sup> 写真については、豊橋まちなか図書館ウェブサイトより引用。

### 3. 海南 nobinos

施設名	海南 nobinos（海南省海南図書館）
住所	和歌山県海南市日方 1525-6
開業年	令和2（2020）年6月
延床面 <sup>32</sup>	7,850 m <sup>2</sup>
事業主体	海南省
運営方法・運営者	指定管理者制度・ TRC 海南（（株）図書館流通センター、大揚興業（株）、（株）明日香）
図書蔵書数 <sup>32</sup>	123,000 冊（うち開架図書 117,000 冊）
利用者数 <sup>38</sup>	1,700 人／日
開館時間 <sup>32</sup>	9 時～21 時 30 分
休館日 <sup>32</sup>	12 月 29 日～1 月 3 日
施設内容 特徴	<p>にぎわい創出をコンセプトに旧海南省庁舎、海南省児童図書館跡に建設。図書館機能・生涯学習活動支援機能・子育て支援機能・カフェ・広場などを有する。3 階のこどもライブラリーでは、押入れのようなブース席、ゴロゴロしながら本を楽しむことのできる読書の森などがある。4 階は大人向けとなっており、森の音や川の音が BGM として流れ、ゆったりと本を手にくつろぐことができる。</p> <p>また、南海トラフ地震の津波緊急避難ビルでもあり、1 階は津波の力を逃がすようにピロティー式の駐車場とし、2 階以上に図書館等を配置している。</p>
ホームページ <sup>39</sup>	<a href="https://kainan-nobinos.jp/">https://kainan-nobinos.jp/</a>

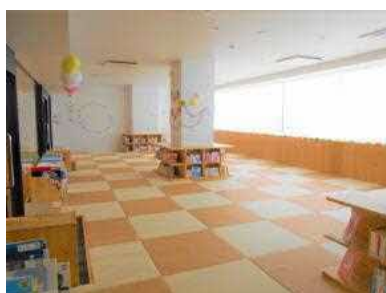


<sup>38</sup> ヒアリングによる。

<sup>39</sup> 写真については、海南 nobinos ウェブサイトより引用。

#### 4. 真庭市立中央図書館

施設名	真庭市立中央図書館
住所	岡山県真庭市勝山 53-1
開業年	平成 30 (2018) 年 7 月
延床面積 <sup>32</sup>	3,873 m <sup>2</sup>
事業主体	真庭市
運営方法・運営者	直営
図書蔵書数 <sup>40</sup>	97,761 冊 (令和元年末)
利用者数 <sup>41</sup>	20,470 人 (年間、令和 2 (2020) 年度末)
開館時間 <sup>40</sup>	9 時～19 時 (シアターは 21 時)
休館日 <sup>40</sup>	月曜日、年末年始、蔵書点検 (年 14 日以内)
施設内容 特徴	築 37 年の旧真庭市勝山庁舎を図書館に改修させた施設である。耐震補強の実施や内外装を一新し、旧議場をシアタールームとして改修するなど、図書館として大規模な改修を行った事例。また、CLT を使用している。 館内施設は図書館、シアタールームの他に観光案内、学習スペース、子育てスペース、市民利用可能な会議室が設けられている。
ホームページ <sup>42</sup>	<a href="https://lib.city.maniwa.lg.jp/syukai2.html">https://lib.city.maniwa.lg.jp/syukai2.html</a>



<sup>40</sup> 真庭市ウェブサイトより。

<sup>41</sup> 真庭市ウェブサイト「付章真庭市立図書館の現状より」引用。

「<https://www.city.maniwa.lg.jp/uploaded/attachment/24326.pdf>」

<sup>42</sup> 写真については、真庭市立中央図書館 (中・右計 4 枚)、株式会社青木茂建築工房 (左計 2 枚) ウェブサイトより引用。株式会社青木茂建築工房ウェブサイトの写真については、「上田宏建築写真事務所」撮影。

## 5. 高梁市図書館

施設名	高梁市図書館
住所	岡山県高梁市旭町 1306
開業年	平成 29 (2018) 年 2 月
延床面積 <sup>43</sup>	3,882 m <sup>2</sup> (うち図書館部分 2,251 m <sup>2</sup> )
事業主体	高梁市
運営方法・運営者	指定管理者制度・カルチャア・コンビニエンス・クラブ株式会社
図書蔵書数 <sup>44</sup>	140,000 冊 (令和元年末)
利用者数 <sup>45</sup>	659,993 人 (平成 29 年 2 月～30 年 1 月)
開館時間 <sup>44</sup>	9 時～21 時
休館日 <sup>44</sup>	年中無休
施設内容 特徴	JR 備中高梁駅と直結している図書館。図書館とバスセンター、観光案内所等の複合施設。2 階から 4 階までの吹抜けが設けられている。 図書館内には、学習室、多目的室等が設けられているとともに、カフェ、書店も同フロアに設けられている。
ホームページ <sup>46</sup>	<a href="https://takahashi.city-library.jp/library/ja">https://takahashi.city-library.jp/library/ja</a>



<sup>43</sup> カルチャア・コンビニエンス・クラブ株式会社ウェブサイト

「[https://www.ccc.co.jp/news/pdf/20170203\\_ccc\\_takahashishi.pdf](https://www.ccc.co.jp/news/pdf/20170203_ccc_takahashishi.pdf)」

<sup>44</sup> 高梁市図書館ウェブサイト「<https://takahashi.city-library.jp/library/ja/faq-page>」

<sup>45</sup> 高梁市ウェブサイト「<https://www.city.takahashi.lg.jp/uploaded/attachment/12807.pdf>」より引用。

<sup>46</sup> 写真については、高梁市図書館ウェブサイトより引用。

## 6. 中心市街地中核施設「Mallmall（まるまる）」

施設名	都城市立図書館（中心市街地中核施設「Mallmall（まるまる）」）
住所	宮崎県都城市中町16-15
開業年	平成30（2018）年4月
延床面積 <sup>32</sup>	8,046㎡（未来創造ステーション部分は除く。）
事業主体	都城市
運営方法・運営者	指定管理者制度・MALコンソーシアム（図書館）他部門ごとに指定管理
図書蔵書数 <sup>32</sup>	486,000冊（うち開架図書162,000冊）
利用者数 <sup>47</sup>	200万人/年
開館時間 <sup>48</sup>	9時～21時（図書館、広場）、 9時～22時（未来創造ステーション、交流センター）
休館日 <sup>48</sup>	（図書館）定期休館なし（保守点検、図書整理等で休館あり。） その他各エリアにより休館日が異なる。
施設内容 特徴	既存の商業施設を利用し、図書館を核とする施設に改修。ほか、子育て支援施設や保健センターなど4施設が入る新築建物、既存駐車場棟で構成される。保健センターを除く7施設は全て、民間事業者や社会福祉法人の指定管理で運営・管理が行われている。来場者の回遊効果を高めるため、屋根付きのイベント広場で年間200回のイベントを実施。 図書館は空間の質を担保するため、「図書館備品調達等業務」を図書館の管理・運営業務や1階に併設するカフェの運営業務と一体化した発注方式を採用。
ホームページ <sup>49</sup>	<a href="http://mallmall.info/index.html">http://mallmall.info/index.html</a>



<sup>47</sup> 新・公民連携最前線ウェブサイト

「<https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/434167/052800107/>」より引用。

<sup>48</sup> Mallmall ウェブサイト「<http://mallmall.info/index.html>」より引用。

<sup>49</sup> 写真については、Mallmall ウェブサイトより引用。



# 最終回 市民ワークショップ 「私たちが考える、地区内公共施設再配置案」 をテーマにグループ討議を行いました

7月2日(土)芋井公民館で、市が主催する最後の「芋井地区の公共施設について考える 市民ワークショップ」を開催しました。

既存の公共施設の再配置についてグループ討議を行い、まとめとなる意見発表を行いました。アドバイザーの前橋工科大学堤准教授から講評いただき、長野市樋口副市長から御礼のあいさつを申し上げ、最後に参加者全員で記念撮影を行って、芋井地区のワークショップは幕を閉じました。



各グループから、芋井地区の公共施設再配置について提案をいただきましたが、再配置の方向性は見えてきたように思います。(次ページをご覧ください)

今後、具体的な再配置計画の策定につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等を参考に、住民自治協議会をはじめとする地域の皆さまと、引き続き、協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

**市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望など  
ありましたら、遠慮なく行政管理課までお寄せください。**

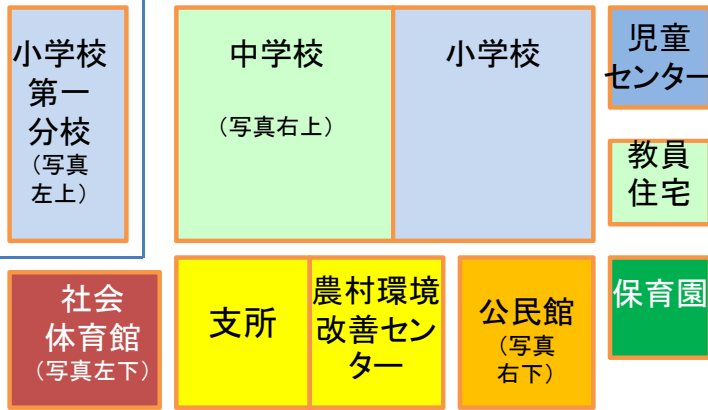


ワークショップの様子は、インターネットテレビ「愛TVながの」でご覧いただけます。長野市公式ホームページからアクセスしてご覧ください。

【お問い合わせ先】

行政管理課 公共施設マネジメント推進室  
電話:224-8402

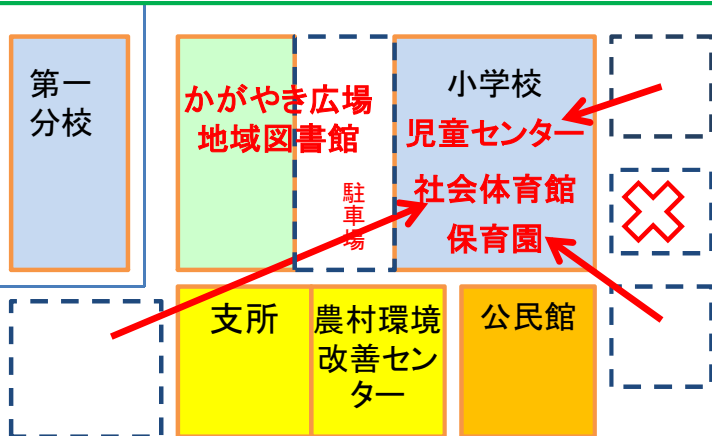
## 検討対象施設のイメージ



## 各グループの施設再配置案の概要をご紹介します

### Aグループ

**コンセプト【みんなが安心して暮らせるまちづくり】**  
 みんな=芋井地区の人々、安心して=災害に強い



#### 《効果》

- ・小中学校に機能を集約すれば世代間交流ができる場所になる
- ・学校への集約により災害対策がしやすくなる
- ・中学校は高齢者施設や図書館など、まだ使い道がある（一部取壊して駐車場不足解消）

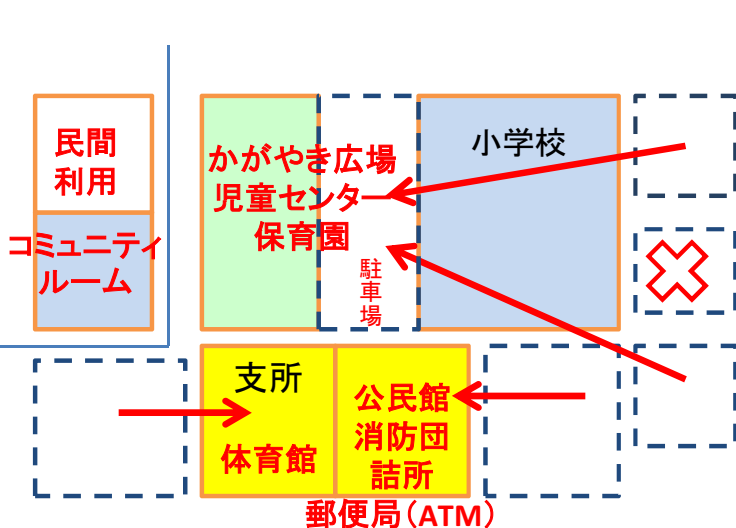
#### 《課題》

- ・一箇所に集中すると災害時に被害が拡大する恐れがある（施設分散も必要ではないか）
- ・集約化で施設が遠くなる住人がいる（足の確保）
- ・高齢者にとって本当に使いやすいのか考える必要がある

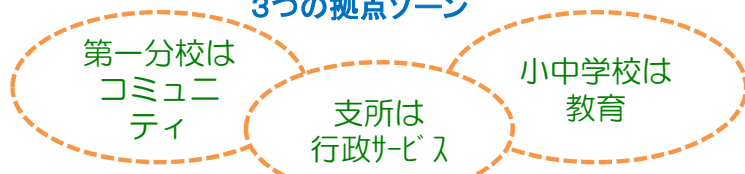
【Aグループ】 人生の大先輩の皆さん

### Bグループ

**コンセプト【安全性・利便性・雇用・経済性】**  
 3つのゾーンを構築し、コンセプトを実現



#### 3つの拠点ゾーン



#### 《効果》

- ・土砂災害計画区域指定等を考慮して安全性の確保を図る（耐震性のある建物、指定区域外の施設への機能移転）
- ・バス路線等、交通の利便性の良い場所に行政機能が集約する
- ・分校は民間利用により新たな雇用の創出を図る

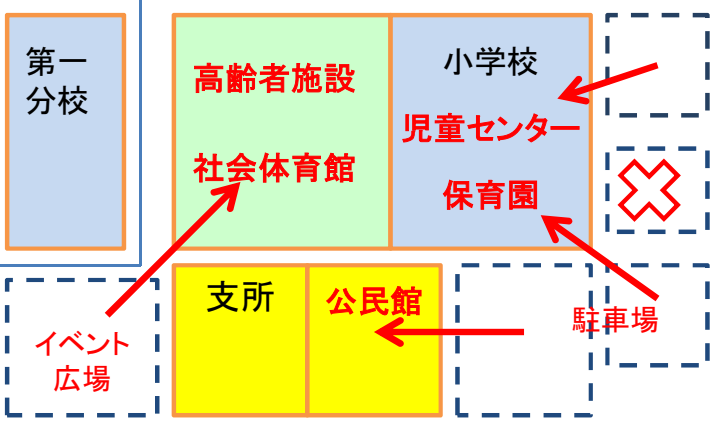
#### 《課題》

- ・3つのゾーン間の交通手段の確保
- ・民間利用の中身（高齢者向け・若者向け？そもそも誘致できるか）

【Bグループ】 地域のリーダー世代の皆さん

# Cグループ

## コンセプト【 地域一丸 !! 】 地区内外、老若男女を問わず交流が行える場所を作る



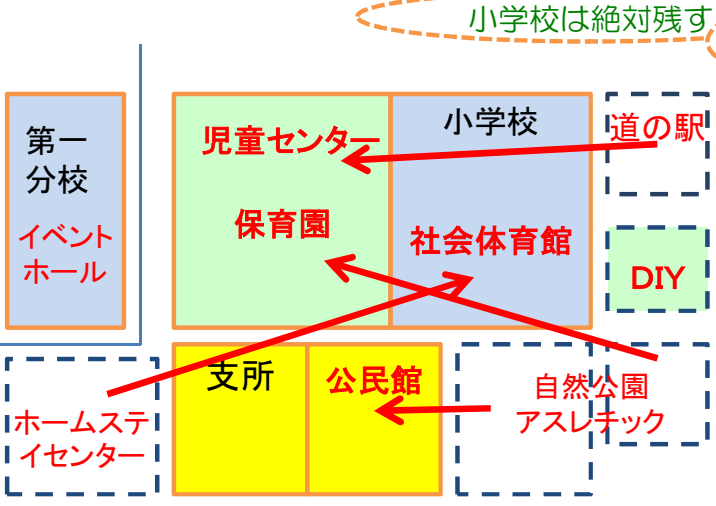
第一分校は飯綱地域との交流拠点  
芋井版ぐるりん号を走らせる  
体育館跡はイベント広場  
他は駐車場に

- 《効果》
- ・小中学校では、地域ぐるみで安心・安全な子育て、世代間交流でお年寄りが元気になる
  - ・支所に公民館を集約させ利便性が向上する
- 《課題》
- ・交通手段の確保（芋井版ぐるりん号）
  - ・集約化により施設利用者が増えるため駐車場不足が懸念される
  - ・施設の建て替えなど再編にかかるコスト

【Cグループ】働き盛りのお父さんお母さん

# Dグループ

## コンセプト【 若返れ!! 芋井!! 】 若手のリクルート、自然を残し昔の良きものを活かす新しい芋井、子育てや子どもにやさしい自然を活かす



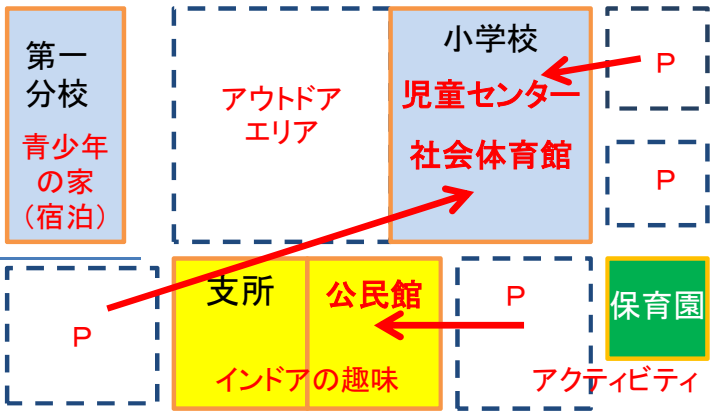
小学校は絶対残す  
芋井版ぐるりん号を走らせる  
農業・イベントで若者向け雇用活性化

- 《効果》
- ・支所への集約により連絡の取りやすい地域運営が可能になる
  - ・移転後の跡地には自然公園やホームステイセンターなどを整備（安心できる子育てを）
  - ・教員住宅はDIYの実践の場として開放する
  - ・芋井地区ならではのイベントを開催するスペースができる（魅力的な場所作り＝PR）
  - ・イベントホールやDIY実践の場により、若者を呼び込める
- 《課題》
- ・アピール方法

【Dグループ】子育て中の女性と地域おこし協力隊

# Eグループ

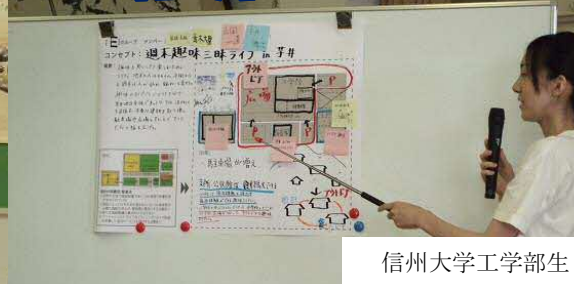
## コンセプト【週末趣味三昧ライフ in 芋井】 趣味を思い切り楽しめるエリアを作り、芋井全体をネットワーク化して活性化



- 《効果》
- ・支所公民館では食体験ができる。
  - ・駐車場が増える
  - ・分校は宿泊機能を持たせ、宿泊体験のできる趣味のエリアになる
  - ・小中学校エリアは、中学校跡地を広場とし、アウトドア趣味エリアとする
  - ・不要な建物を取り壊し、駐車場や広場とすることでアクティビティの幅が広がる
  - ・アウトドアとインドア両方の活動が可能になる
  - ・地元住民だけでなく、週末は市街地から人が訪れて賑わうように

【Eグループ】信州大学工学部の学生の皆さん

# 参加者アンケートの主な意見をご紹介します



## 【Aグループ】 人生の大先輩の皆さん

- ◆結論ありきでなく、いろいろな視点があり、いろいろな世代が一緒におとしどころを作っていくことができることを願っている
- ◆これからどうするのかを地域全体で話し合いたいと思う。今後の計画について知らせてほしい
- ◆グループ内のまとめは年代も違い難しい
- ◆実現できるかは別として、夢を語ることはワクワクした。実現したいこともあった

## 【Bグループ】 地域のリーダー世代の皆さん

- ◆いろいろな世代、地区の住民がどんな暮らし、どんな未来を描いているのか、お互いに知り合うことが出来て良かったと思う
- ◆今回参加して、改めて公共施設の一つ一つについて、利用方法を含めて考えることができた。若い世代に公共施設等よりよい地域を残すためにどうしたら良いか考える機会となった

## 【Cグループ】 働き盛りのお父さんお母さん

- ◆ワークショップは難しい作業だったが、今後の芋井の在り方を考える良い機会となった
- ◆地域が本気で施設のこれからを考えないと、子や孫の世代に負担を強いることになる
- ◆今回のワークショップは始まりであって、今後地域ぐるみでさらなる検討や調整を深めていき、市に提案できるものをまとめ上げていかなければならないと感じた
- ◆より多くの方々に、このような機会があれば地域全体で考えていけるのではないかと

## 【Dグループ】 子育て中の女性と地域おこし協力隊

- ◆世代別のグループでやってみて、老若男女混ざったグループもやってみたらよいのでは
- ◆芋井地区の若手を集めて10年後、20年後の芋井を考える場を作って欲しい
- ◆「やりたいこと探し」なのか「公共施設をいかに使うか」なのか、最後まで論点と内容がずれていた気がする
- ◆中山間地域で「50年続く活動」を見つけるのは難しい。公共施設は存続し得ないことになる

## 【Eグループ】 信州大学工学部の学生の皆さん

- ◆中山間地域の課題は全国共通なので、中山間地域の公共施設問題のケーススタディとして有効なものになればと考えた
- ◆誰が使うのか、どうやって使うかなど、深いところまで考えることが出来ず少し悔いが残る。学生チームとして何か残すことができたか分からないが、学生は得ることがあったと思う
- ◆4回のワークショップを通して、公共施設の意味が前提から分かり、公共施設について深く考え直すことができた

【堤先生の講評から】「公共施設を通して「生活」を考える。公共施設は地域全員のものだから、他人任せの施設整備で生活の質は向上しない⇒地域全員で考える。住民の役割は、施設への要望するだけではなく、自分たちが続けられる活動を自治体に示すこと。自治体の役割は、明確な根拠をもって方針を示すこと。ワークショップのような施設整備を考える機会を、今後の整備計画に活用するために、住民と行政がそれぞれの役割を果たしながら協働すること。

ワークショップメンバーの皆さま、住民自治協議会の皆さま、ありがとうございました。  
今後も引き続き、ご協力をお願いします。





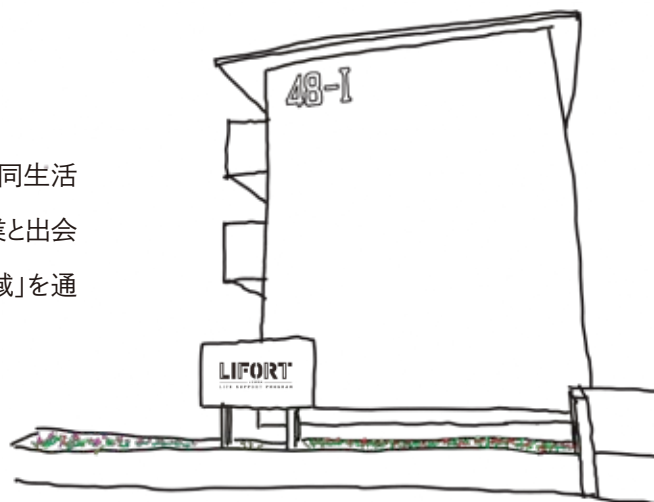
# 広瀬団地 学生シェアハウス リノベーション

## 貴重な大学生生活4年を、どう過ごすか。

ここには学生をサポートする様々な仕掛けが施されています。共同生活を通して得る時間や仲間、団地住民や社会との交流、様々な企業と出会う就職情報、将来のために必要なお金のこと。LIFORTでは「地域」を通して、大学生生活をサポートします。

**LIFORT**  
LIFE SUPPORT PROGRAM

LIFORT-広瀬団地とは LIFE (ライフ) + SUPPORT (サポート) をあわせた造語です。  
地域に若ものの定住による新しい力が芽生え、地域に住む多世代と新しい未来を描く、  
地域創生を実現することを支援するプログラムです。



<https://lifort.net/>

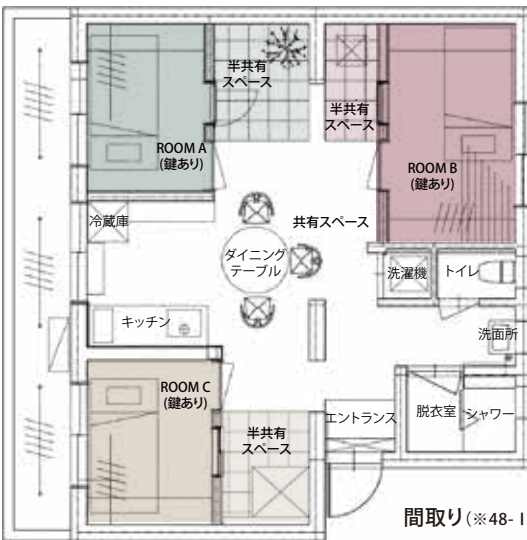




まちづくりや建築に関わる  
企画・業務を体験したい学生募集。  
1室3名の計4室12名。

老朽化した団地を再生し、地域と学生が繋がり、共に協力しあえる場所を作りました。リノベーションされた部屋は3人が共同生活するシェアルームに。学校にも近く、インテリアにこだわった家具付き。まちづくりや建築に関わる企画・業務を体験したい学生を対象として募集します。LIFORT では安心、そして充実した学生生活を送るために「住居」「生活」「就職」「金融」に関わる支援プログラムを実装しています。様々なイベントやワークショップを通じて、他ではできない体験を、一緒に楽しみましょう!

左上・右上/個室の様子(雑貨はイメージです)  
左下/改修の様子、右下/花壇ワークショップの様子



住居番号	面積
ROOM A	4.3 m <sup>2</sup>
ROOM B	6.2 m <sup>2</sup>
ROOM C	4.6 m <sup>2</sup>

棟名・階数及び間取りプラン

- 46-G 3階(個室/CF)
- 47-H 2階(個室/CF)
- 48-I 1階(個室/CF・ヒノキ)  
(※CF=クッションフロア)
- 46-G 2階(個室/畳)  
(※上記プランとは間取りが異なります)

間取り(※48-Iのみ反転した間取りになります。)



シェアハウス住人が利用できる  
オープンシェアスペースを完備

広瀬団地内の徒歩2分のところにシェアスペース「広瀬ステーション」があります。キッチンやデスクなどを学生の自由に使用することができます。前橋工科大学のゼミや近隣住民と一緒に、地域のイベントなども開催予定です。

全部屋 共通事項	家賃	契約一時金	更新費	完備品(個室)		完備品(共有)	
	30,000円	50,000円	契約期間2年、最長4年 20,000円	・ベッドフレーム ・マットレス ・デスク	・チェア ・照明器具	・レンジ ・エアコン ・洗濯機	・Wi-fi ・冷蔵庫 ・チェア ・ダイニングテーブル ・ガスコンロ

備考 ※一部、詳細は契約時の覚書を参照

- ・入居者は「広瀬ステーション(共有室)」を基本全日利用可能※一部制限あり
- ・管理費なし、水道光熱費等は借主負担・部屋別に均等割り
- ・共有部分の利用方法については同居者間で調整
- ・個室部分は事前申請を行えば自由に改修可能・原状復帰必要なし
- ・団地に関する活動や週1・1コマ(1時間半)程度のゼミ等への参加が条件
- ・その他入居者の提案を実現する様々な支援体制あり

詳しい情報はこちら  
から御覧ください。



LIFORT事務局(LIFORTシェアハウス)

運営者:NPO法人デザインマネジメント研究所  
前橋オフィス:  
371-0022 群馬県前橋市千代田町3-4-7  
問い合わせ:080-6591-9786(近野)  
MAIL:rdmlab.office@gmail.com



ACCESS

- 住所:群馬県前橋市広瀬町2丁目27番地3
- 交通:JR両毛線「前橋駅」より車で15分  
:市営バス前橋駅から群銀広瀬支店前(25~30分)徒歩1分
- 前橋工科大学までの通学  
:車で8分(駐車場は別途確保可)  
:自転車15分・徒歩35分
- 周辺情報:コンビニ徒歩5分  
:スーパー徒歩7分  
:薬局徒歩7分